

1 **法養寺薬師堂** 1棟・県指定有形文化財【建造物】
昭和49年3月8日指定

両神村薄2301・薬師堂護持会

薬師堂は、戦国時代に鉢形城主北条氏邦が古堂を移築したものと伝えられている。構造は、桁行・梁間ともに三間、一間の向拝が付く寄棟造。屋根は茅葺きだったものを昭和53年に銅板葺きに改修した。建築様式は、和洋に唐様が入り交じり、建物軸部の木割りが太く、組み物は繊細な感じをそなえ、ヤリガンナで仕上げられている。県内の室町時代建築の特徴を伝える数少ない建造物である。間口11.7m、奥行11.27m。



2 **絹本着色十三仏像** 1幅・県指定有形文化財【絵画】
昭和29年10月23日指定

小鹿野1823・十輪寺

十三仏は、初七日から13回の追善供養に本尊となる仏、菩薩。本図は天蓋の下に虚空蔵菩薩を頭に、湧雲を背景にし、金箔地に截金文を施した諸仏を配し、洗練された技法を示す。室町時代初期の制作と推定され、十三仏信仰の初期に属し民間信仰上の資料としても貴重なものである。(縦106.0cm、横48.5cm)



3-1,2 **木造金剛力士立像** 2軀・県指定有形文化財【彫刻】
昭和38年3月29日指定

小鹿野1823・十輪寺

本像は、ともに檜材を用いた寄木造で、目は彫眼、衣の一部に華麗な彩色が残っている。材料の檜は町内伊豆沢から伐り出されたと伝えられ、今も仁王平の地名が残る。製作年代は室町時代と考えられ、阿形像に寛文2年(1662)の修理銘が刻まれている。(像高、阿形像187.7cm、吽形像187.0cm)



4-1 **木造阿弥陀如来坐像** 1軀・県指定有形文化財【彫刻】
昭和59年3月27日指定

河原沢442・真福寺

檜材の寄木造、漆箔、玉眼、上品下生の来迎印を結ぶ等身大の坐像である。整った体部の構成、流麗な衣文、端正な面相は、鎌倉時代中期の様式をよくあらわし、慶派の正系に属す仏師の手になるものである。(像高86.6cm)



4-2 **木造聖観音菩薩立像** 1軀・県指定有形文化財【彫刻】
昭和59年3月27日指定

河原沢442・真福寺

阿弥陀如来像の脇侍として安置され、檜材の寄木造、漆箔、玉眼。透かし彫りの宝冠、瓔珞をつけ左手に蓮華を持ち、腰をやや左に捻る優美な像である。顔立ちはやや面長で髻を高く結い、切れ長の眼に張りのある頬を持ち鎌倉時代中期の様式をよくあらわしている(像高107.0cm)。真福寺は、鎌倉時代に丹党武士の中村氏が本貫地としていた三山郷に属し、両像も中村氏が造立し、信仰していたと考えられる。



5-1 **木造十二神将立像** 12軀・県指定有形文化財【彫刻】
平成11年3月19日指定

両神村薄2301・薬師堂護持会

薬師堂の堂内に安置され、本尊の薬師如来を守護する。十二神将像は、いずれも割刳造り、彫眼、彩色が施される。脚ほそ部の墨書銘から、天正13年(1585)から14年にかけて、北条氏邦とその家臣団が旦那となって奉納されたことがわかる。薄薬師を加護した戦国武将の信仰を示すうえでも貴重な資料である。(像高85.5~91.5cm)



5-2 **木造日光菩薩・月光菩薩立像** 2軀・県指定有形文化財【彫刻】
平成11年3月19日指定

両神村薄2301・薬師堂護持会

薬師如来の脇侍として安置される日光菩薩・月光菩薩像は、寄木造、彫眼で、その作風から、十二神将像と同時期の制作と推定されている。(像高 日光菩薩86.0cm、月光菩薩88.0cm)



6 **長享二年秩父札所番付** 1巻・県指定有形文化財【古文書】
昭和34年3月20日指定

般若2661・法性寺

秩父札所の創立は明らかでないが、本番付は長享2年(1488)に記され、室町時代すでに33か所の札所が定められていたことを物語る。当時の順路は現在とは異なり、秩父大宮郷が中心で、江戸時代に入り、江戸からの巡礼者が多くなり現在の順路に変わったものと思われる。(縦24.5cm、横101.8cm)



7 **塚越向山遺跡出土注口土器及び収納石器** 31点・県指定有形文化財【考古資料】
平成10年3月17日指定

小鹿野123・小鹿野町教育委員会

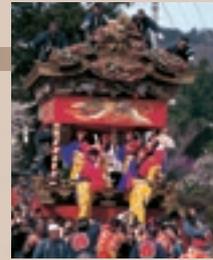
縄文時代中期末(約4,000年前)の住居跡の石囲い炉から出土し、注口土器の中に石器の原材料となる黒曜石の塊・破片19点と磨製石斧の完形品10点が納められていた。全国でも出土例の少ない資料。塚越向山遺跡(秩父市上吉田)は合角ダム水没地域発掘調査により発掘調査が行われた遺跡。



8-1 **小鹿野祭屋台春日町屋台** 1基・県指定有形民俗文化財
昭和51年3月30日指定

小鹿野93-3・春日町屋台保存会

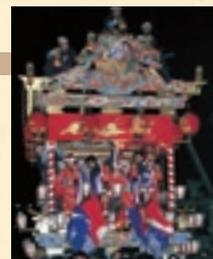
4月第3土曜日とその前日に行われる小鹿神社の春祭りには祭りの華ともいふべき屋台2基と笠鉾2基(県指定文化財)が町内を曳行される。春日町屋台は、江戸時代に建造されたものを明治5年(1872)に改修したもので、歌舞伎上演のための張出しや花道・芸座まで同時に作られ華麗な装飾が施されている。



8-2 **小鹿野祭屋台上町屋台** 1基・県指定有形民俗文化財
昭和51年3月30日指定

小鹿野1823-1・上町屋台保存会

上町屋台は、明和5年(1768)にはすでに所在していたが、江戸時代末に建造され、明治2年(1869)に改修されたと伝える。規模は、高さ約6m、正面幅2.52m、反り木の長さ6.16mを測る。張出しや花道、両芸座の設備を持つ。



8-3 **新原笠鉾** 1基・県指定有形民俗文化財
平成11年3月19日指定

小鹿野914-2・新原笠鉾保存会

小鹿神社の春祭りに曳行される笠鉾。笠鉾は、神座を意味する鉾を花で飾り、曳物としたという。新原笠鉾は江戸時代からあったといわれるが、現在のものは明治10年(1877)に新造されたものである。反木の長さ4.95m、幅2.0m、総高約11m。平成9年に3層復元修理が完成し、建造当初の姿に復元された。



8-4 **腰之根笠鉾** 1基・県指定有形民俗文化財
平成11年3月19日指定

小鹿野1432・腰之根笠鉾保存会

腰之根笠鉾も江戸時代にあったというが、新原笠鉾と同時期の明治10年(1877)に新造された。建造当初は三層の笠をつけていたが、大正6年頃、二層に改修された。反木の長さ5.1m、正面幅1.96m、総高約11mを測る。平成10年に3層復元修理が完成し建造当初の姿に復元された。



9 **小鹿野の歌舞伎芝居** 県指定無形民俗文化財
昭和50年3月31日指定
昭和52年3月29日指定替

小鹿野町・小鹿野歌舞伎保存会

小鹿野歌舞伎の創始者は文化・文政期(1804-1830)に活躍した初代坂東彦五郎で、その後勇佐座・天王座・大和座と引き継がれた。昭和に入り一座芝居も大きく変化した。昭和48年に旧大和座系の役者と町内各地で地芝居を行っていた人々により小鹿野歌舞伎保存会が結成され、熱心に伝承されている。



10 **飯田八幡神社の祭り(鉄砲祭り)** 県指定無形民俗文化財 昭和62年3月24日指定

飯田2753・八幡神社

毎年12月第2日曜日に行われ、神馬が参道の両側で発射される空砲の中を社殿に駆け登る「お立ち」の神事が「鉄砲祭り」の名で知られる。前日の宮参りに始まり笠鉾・屋台曳行や三番叟や歌舞伎、大名行列、神輿渡御、川瀬神事など多彩な行事が続く。鉄砲の奉納は豊穡祈願ともいわれるが起源は明らかではない。



11 **半平の天王焼き** 県指定無形民俗文化財 昭和63年2月26日指定

三山半平・半平の天王焼き保存会

7月海の日の前日に半平で行われる火祭りの行事。耕地を見おろす山の中腹ある天王社の前に麦藁で高さ約10mの小屋を作り、火をつけて厄病を炎で焼き滅ぼし耕地の安全を祈るものである。起源は明らかではないが、かつては耕地の男の子たちによってすべて執り行われていたが、耕地全体の行事になっている。



12 **橋詰のドウロク神焼き** 県指定無形民俗文化財 昭和63年2月26日指定

河原沢字橋詰・橋詰のドウロク神焼き保存会

1月第3土曜日に橋詰耕地で行われる小正月の火祭り行事。ドウロク神は二体の自然石で耕地内の峠に祀られている。木や竹を組んで高さ7~8mの三角すい形をした小屋を作り、ドウロク神を小屋の中に納め、夕刻火を付けて一緒に焼く。オッカソ(栲)の木で作った脇差を焦がし、各家の戸口に飾り魔除けとしている。



13 **出原の天気占い** 県指定無形民俗文化財 平成8年3月19日指定

両神薄出原・出原の天気占い保存会

農作物の豊凶に影響を及ぼす1年の天気を予知するため、諏訪神社の祭礼神事として毎年2月25日に行われる。直径約80cmの的に篠竹製で矢羽根に諏訪神社と小鷹神社の区別をつけて作った4本の矢を射る。的の白い所に矢が多くあたる晴天の年に、黒は雨の多い年、的はずれが多いと大風が吹くというように占う。神事とともに稷と大豆の粉で作るシトギも貴重な習俗である。

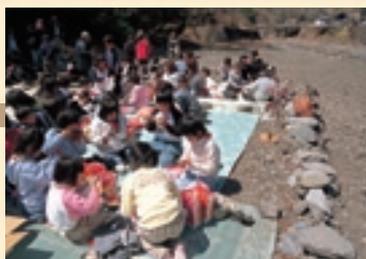


14 **河原沢のおヒナゲエ(お雛粥)**

国選択無形民俗文化財 平成10年12月1日選択
県指定無形民俗文化財 昭和63年2月26日指定(平成11年3月19日名称変更)

河原沢字日向・河原沢おひなげ保存会

4月3日に子どもたちが粥を炊き食べながら祝う雛祭りの行事。河原沢全域の子供たちが参加している。川原石で石囲いとかまどを作り、古い雛を石の祭壇に飾り、花や粥が供えられる。起源は明らかでないが、災厄を雛に託して川に流すという雛祭りの古い形を伝える貴重な行事である。



15 **鷲窟磨崖仏** 県指定史跡 昭和9年3月31日指定

飯田2201光源院・札所31番奉賛会

この磨崖仏は、新生代第三紀層(約1千5百万年前)の礫質砂岩の岩肌に刻まれている。高さ18cm程の浮き彫りの坐像と立像が幾重にも横列に表されており、俗に「十万八千仏」といわれる。室町時代頃の製作と推定される。風化磨滅が激しいが、群像として刻まれた磨崖仏としては、県内では他に例がない。



16 **甲源一刀流逸見氏練武道場** 1棟・県指定史跡 昭和18年2月15日指定

両神薄167・逸見知夫治

甲源一刀流は、江戸時代後期、天明・寛政の頃、甲斐源氏を祖とする逸見太郎義年(1747~1828)が創始した一刀流の一派。現在の当主剣道9世の知夫治氏に受け継がれる。門弟は、北武蔵を中心に全国に広がり往事は3千人を超えたという。道場は、木造平屋建で白壁をめぐらし武者窓がつけられている。稽古場の面積は10坪、控室が2.5坪あり、稽古場に続いて一段高く床の間付きの師範席がある。



17 **フクジュソウ群落** 県指定天然記念物 昭和30年10月10日指定

両神薄、両神小森・今井徳市、千島一朗、加藤麗子ほか

フクジュソウの群落は、町内の標高500~600mの東北向きの傾斜面3カ所が指定されており、3月上旬から4月中旬にかけて、黄金色の一重咲きの美しい花を咲かせる。花卉は直径3~4cm、植林などの影響で群落も減少している。



18 **犬木の不整合** 県指定天然記念物 平成7年3月16日指定

三山字小金沢・新幸蔵

不整合とは上下に重なった二つの地層の時期に大きな開きのある場所をいう。小金沢地内の赤平川左岸岩壁に幅約25mにわたって観察できる。山中地溝帯白亜系(約1億年前)の頁岩・砂岩の地層の上に、秩父盆地を形成する新生代第三紀層(約1千5百万年前)の礫岩が重なる。



19 **斎藤義彦の墓** 1基・県指定旧跡 昭和36年9月1日指定

長留1652・杉田勝利

斎藤義彦は、天明5年(1785)大野原(秩父市)の荒船家に生まれ、秩父神社に仕立後、京都で国学を修め、旗居の諏訪神社社家の斎藤家に入った。後に江戸に出て幕府神道方の吉川家に仕え、その学頭となり著書と和歌集を数多く残した。天保2年(1841)57歳で南埼玉郡豊春村(春日部市)で没したと伝える。



20 **森玄黄斎の墓** 1基・県指定旧跡 昭和36年9月1日指定

下小鹿野274・森真太郎

森玄黄斎は、文化4年(1807)白久村(荒川村)の山中家に生まれ、幼い頃から彫刻に巧みで、天保2年(1831)奈倉の豪商森伊佐衛門にその才を認められ婿となった。「印籠譜」の著者として著名で、印籠や根付に細密な彫刻を施し、忍藩主や將軍家に献上したほか多数の作品を残し、明治19年80歳で没した。

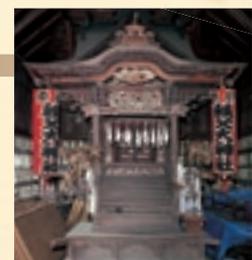


小鹿野町指定文化財

21 **聖天宮** 1棟・町指定有形文化財[建造物] 昭和34年8月24日指定

般若2690・秩父大神社

聖天宮は、札所32番の近くに歓喜天を祀った聖天社が起源と伝える。桁行160.0cm、梁間130.0cm、奥行130.0cmの向拝が付く。総檜造りで、入母屋屋根に軒唐破風、千鳥破風等が付き装飾的な社殿である。棟札に寛政8年(1796)に再建した旨と上州群馬郷上小鳥村(高崎市)井坂近江守の銘がある。



22 **小鹿神社旧本殿** 1棟・町指定有形文化財[建造物] 昭和45年12月13日指定

小鹿野88・小鹿神社

小鹿神社は、明治43年の洪水等により腰の根地内へ移転し、本殿はそのまま残された。桁行142.0cm、梁間153.0cm、流造り、唐破風と千鳥破風の向拝が付き、精巧な彫刻を施した社殿である。小鹿神社に合祀された諏訪神社の社殿は安永4年(1775)の建立て規模や様式は、小鹿神社旧本殿とほぼ同じである。



23 やくし どう におうもん
薬師堂仁王門 1棟・町指定有形文化財【建造物】
昭和48年5月17日指定

両神薄2301-1・薬師堂護持会

日本三体薬師として厚い信仰を集める薄薬師堂の入口を守る江戸時代中期の建造物。間口が6.93m、奥行4.19m、高さ7.92mの総檜造りの瓦葺き。安置される木造金剛力士立像は、開口の阿形像と閉口の吽形像の2軀で、一般には仁王像といわれ、天保2年(1831)の墨書銘がある。



24 す わ じん じゃ ほん だん
諏訪神社本殿 1棟・町指定有形文化財【建造物】
昭和58年9月30日指定

般若2592・諏訪神社

諏訪神社は、柿の久保耕地の鎮守。桁行60.0cm、梁間60.0cmの小型の社殿であるが、聖天宮を建造した際の余材で作られたという伝承がある。正面には唐破風と千鳥破風が付き、軒回り、柱などに細かい彫刻と彩色が施されている。現存する棟札には宝永3年(1706)の再建と記されている。



25 みょうけんぐう ほん だん
妙見宮本殿 1棟・町指定有形文化財【建造物】
昭和61年2月26日指定

下小鹿野124・奈倉耕地

妙見宮の創立は永禄元年(1558)奈倉氏が秩父の妙見菩薩(秩父神社)を勧請したものと伝える。仁王像が安置され妙見宮を守護している。桁行182.0cm、梁間158.0cm、高さ約580cmを測る。屋根は柿葺きで正面に唐破風と千鳥破風が付く春日造の神社建築である。棟札から安永3年(1774)の建造と知られる。



26 す わ じん じゃ ほん だん
諏訪神社本殿 1棟・町指定有形文化財【建造物】
昭和63年2月22日指定

伊豆沢1959・諏訪神社

諏訪神社は、伊豆沢上郷・中郷の鎮守として祀られ、寛永年間(1624-1643)に信濃から勧請したと伝わる。本殿は、桁行98.0cm、梁間81.0cm、板葺きの一間社流れ造りの社殿である。細部に中世末の唐様の手法を残している点は秩父地方では類例が少なく貴重なものである。江戸時代初期の建造と推定される。



27 た か し ら す わ じん じゃ ほん だん
田の頭諏訪神社本殿 1棟・町指定有形文化財【建造物】
平成2年3月4日指定

三山425・田の頭耕地

田の頭耕地の北側の山腹に鎮座し、毎年8月6日に祭りが行われている。桁行105cm、梁間85cm、高さ280cmを測り、彫刻が施され彩色が良く残っている。棟札に寛政5年(1793)と大工「西上州群馬郷上小鳥(高崎市)井坂兵部」の記載がある。長若の聖天宮と同一人物の作と考えられ興味深い。



28 た か す か や く し す し つ け たり ほう き ょう
鷹巣下薬師厨子付宝鏡 1棟・町指定有形文化財【建造物】
平成5年9月8日指定

小鹿野267・上一丁目

上一丁目の鷹巣下薬師は古くから信仰を集め、7月7・8日の縁日には行灯が多数飾られ親しまれている。本尊薬師如来を納める厨子は、方形造の建造物。建築年代は不明であるが宝鏡の台に寛政8年(1796)の墨書がある。彩色も良く残っており、江戸時代の建造物として貴重である。



29 か どう け じゅう たく お ちや へい もん い ち ばん ぐら
加藤家住宅(母屋、塀、門、一番蔵) 1棟・町指定有形文化財【建造物】
平成7年3月30日指定、平成11年11月24日追加指定

小鹿野322・加藤悦子

桁行12.6m、梁間13.5mを測る土蔵造り町家で瓦葺き、切妻造りの3階建て建造物。明治13年(1880)加藤恒吉によって建てられ、1階を日用品・食料品等の店舗、2・3階を養蚕飼育に使用していた。3階建ての豪壮な建物は町内では他に類を見ず、県内でも明治初期の木造商家建造物は数少なく貴重である。



30 ちちぶだしよさんじゅうさんばん ほうしやうじ かん のん どう
秩父札所三十二番 法性寺観音堂 1棟・町指定有形文化財【建造物】
平成11年11月24日指定

般若2661・法性寺

聖観音像を本尊とする観音堂は、棟札の写しに宝永4年(1707)の建立と記されている。秩父札所中でも古い建造物である。3間4面(正面幅9.75m)、懸け造り、総ケヤキ材、屋根は方形。基礎からの高さは14.1mを測る。平成12年に屋根葺替え等の復元修理が行われた。



31 しおざわ う が じん じゃ しゃ だん
塩沢宇賀神社社殿 1棟・町指定有形文化財【建造物】
平成14年9月6日指定

両神薄5600・塩沢宇賀神社護持会

塩沢城を築いた長尾意玄入道が稲荷様を信仰したことから、塩沢城入り口の現在の場所に社を建立(1534年)したという。現在の社殿は、文政2年(1819年)に建てられたとの記録が残る。本殿は、表柱間3間(15尺6寸)、側面3間(19尺2寸)で全て丸柱、内部は1室であるが内陣柱が建つ。



32 けん ほん ちゃく し ゃく じゅう さん ぶ つ が ぞう
絹本着色十三仏画像 1幅・町指定有形文化財【絵画】
昭和34年8月24日指定

河原沢442・真福寺

本図は、天蓋の下に虚空蔵菩薩を独立させ、十二尊をその下方に配置して十三仏を描く。やや粗目の絹地に鮮やかな彩色で描かれる。室町時代末頃の製作と思われる。昭和30年頃までは檀家の忌明法要に使用された。保存状態は良く、民間信仰資料としても貴重なものである。(縦80.4cm、横39.8cm)



33 ね はん え かんざんひつ
涅槃絵(漢山筆) 1幅・町指定有形文化財【絵画】
昭和35年12月1日指定

日尾2200・光西寺

本図は、釈迦の死を追慕する涅槃会に掛ける画像で、沙羅双樹の下で入滅する釈迦を中心に一切の生類が嘆き悲しむ背景が極彩色で描かれる。狩野派系のしっかりした筆法で描かれ、嘉永2年(1849)日尾村下平の画家加藤漢山が描き、長久保の女人講中が寄進した。(紙本着色、縦188.0cm、横115.0cm)



34 た け も と さ だ だ じ ょ う が ぞう かんざんひつ
竹本定太夫画像(漢山筆) 1幅・町指定有形文化財【絵画】
昭和35年12月1日指定

日尾1232・加藤光男

竹本定太夫は、天明4年(1784)日尾村に生まれ、江戸に出て竹本越太夫の門に入り、義太夫語りとして名声を博した。本図は、天保15年(1844)還暦を迎えた定太夫が得意の一段を語った姿を同席した加藤漢山が描写したものである。すぐれた肖像画として知られる。(絹本着色、縦83.0cm、横35.0cm)



35 もり げん ころう さい い さく ひん
森玄黄斎の遺作品 10点・町指定有形文化財【絵画・彫刻】
昭和37年9月20日指定

下小鹿野226・森真太郎

『印籠譜』2冊、天保10年(1839)刊、儒者亀田綾瀬が序文を寄せる玄黄斎の傑作の一つ。「恵比寿・大黒の木彫像」2点、天保7年(1836)作。「竹刀」1本、明治元年作、十二支を陰刻。版木「三峰山」「八幡太神」。絵画「猛虎之図」明治18年作「山水之図」明治14年作「自画像」明治7年。の10点。



36 ね はん ぞう が じ く
涅槃像画軸 1幅・町指定有形文化財【絵画】
昭和49年5月15日指定

両神薄2301-1・薬師堂護持会

法養寺(真言宗智山派)蔵の涅槃像画軸で、縦190cmの大掛軸に納められ、色彩が豊かである。本図は、釈迦の死を追慕する涅槃会に掛ける画像であり、かつては法要に使用されていた。寛政2年(1790)井玉泉画と記され、江戸時代後期の仏画として貴重なものである。



37 蘭花芳香(群玉筆) 1幅・町指定有形文化財【絵画】
昭和50年11月19日指定

藤倉647・守屋勝平

新井群玉は、藤倉村に生まれ、越後の絵師で南蘋派を代表する森蘭斎の門に入り、榊原家のお抱え絵師となり名声を博した。本図も南蘋派特有の繊細で写生的な描法を伝え、岩に根を張り小さな花を咲かせている蘭を描く。藤倉村の名主新井文饒が贈ったと伝える。(紙本墨彩、縦118.0cm、横53.5cm)



38 双虎崖下疾駆之図(群玉筆) 1幅・町指定有形文化財【絵画】
昭和50年11月19日指定

藤倉4906・高橋寅一郎

本画は、二匹の虎が崖を斜めに駆け降りる姿を躍動的に描いている。画面右上に「群玉山人」の落款があり、新井群玉の筆になるものである。彩色は少ないが細部の描き方は際だっており、虎の姿と草のなびく様子もよく調和し群玉の作品のなかでもすぐれたものである。(紙本、縦128.5cm、横69.5cm)



39 絹笠神社天井画付絵馬2点 町指定有形文化財【絵画】
平成2年11月26日指定

藤倉1342-2・山口邦夫ほか

絹笠神社は養蚕倍盛を願って大正13年に建てられ、天井板49枚に十二支や花、相撲、養蚕等の様子が昭和4年今井琴谷によって描かれた。琴谷は明治11年金澤村(皆野町)生まれ、黒沢墨山に師事し南宗派の画法を研究し花鳥、動物を得意とした。付属の絵馬2点は白牡丹と獅子、松、鶴を豊かな彩色で描く。



40 紙本着色十二神将像 2幅・町指定有形文化財【絵画】
平成5年9月8日指定

小鹿野267・上一丁目

鷹巣下薬師堂に納められている絵画で、薬師如来を守護する十二の夜叉大将を描く。極彩色を用いた緻密な技法で仏画としても優れている。中阿坊朴叟が天保6年(1835)に描いたと墨書がある。十二神将の画像としてたいへん珍しいもので作者や年代がはっきりしており当町の文化史上貴重な資料である。



41 山水図屏風(漢山筆) 六曲屏風 1隻・町指定有形文化財【絵画】
平成16年3月25日指定

小鹿野556-1・北ラウ

彩色は用いず山水樹石すべて水墨のみで描いた紙本淡彩の山水画。岩肌や木々まで丁寧な描法でまどめている。幕末に多くの作品を残した日尾の画家加藤漢山の大作。縦144cm、幅345cm。六曲の屏風で対となるものはなく詳しい来歴は伝えられていない。



42 鰐口(元禄十二年銘) 1口・町指定有形文化財【工芸品】
平成5年9月8日指定

小鹿野267・上一丁目

鷹巣下薬師を祭るお堂に掛けられていた鰐口。表面の銘文から、元禄12年(1699)江戸の鋳物師の作で小鹿野の初期開発者である出浦氏の寄進とわかる。鷹巣下薬師が江戸時代の早い時期から信仰されてきたことを示し、当時の数少ない資料として文化史上貴重な資料である。



43 春日町屋台後幕刺繍原図 1点・町指定有形文化財【工芸品】
平成5年9月8日指定

小鹿野1808・小池正二

本図は、春日町屋台後幕の見本として日本橋越後屋に作せたと伝わる。昭和56年の屋台修理では本図をもとに後幕が再現された。紺の絹地に松、酒壺と3体の狸が金・銀の糸で刺繍されている。明治初期の工芸品として芸術的価値が高く、屋台の変遷を伝える貴重な資料である。(縦63.0cm、横62.5cm)



44 木造阿弥陀如来立像 1軀・町指定有形文化財【彫刻】
昭和37年9月20日指定

下小鹿野1370普賢堂・普賢堂

本像は、檜材、寄木造、如来形の立像で、両手先と両足先が欠失しているが、来迎印を示していたと思われる。漆箔はほとんど箔落している。定朝様の特色が見られ、細身のすっきりとした姿に切れ長の眼を彫り、円満な顔立ちを持つ。平安時代末の造立と考えられる。(像高96.0cm、総高154.0cm)



45 木造聖観音立像 1軀・町指定有形文化財【彫刻】
昭和37年9月20日指定

飯田273日待堂・三田川1-1区

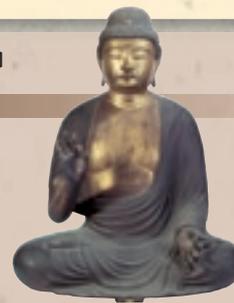
本像は、旧華藏寺本尊と伝わり、寄木造、体部は如来形の衣文を持つ。眼は玉眼、漆箔が施され、左手は蓮華を持っていたと思われる。髪を結びあげた髻、やや肉付きの良い顔や体部は鎌倉時代の様式を示し、13世紀末頃の造立と考えられる。やさしい顔立ちの美しい観音像である。(像高116.0cm)



46 木造阿弥陀如来坐像 1軀・町指定有形文化財【彫刻】
昭和37年9月20日指定

下小鹿野212・大徳院

本像は、寄木造、眼は玉眼、漆箔を施し、肉付きのよい顔、豊かな体部、整然とした衣の線などは定朝様の影響が見られるが、13世紀初め頃の作と思われる。すぐれた技法は、中央の仏師の作であることをうかがわせる。大徳院の開基、奈倉氏の持仏堂の本尊として造立したものと考えられる。(像高52.4cm)



47 木造十一面観音坐像 1軀・町指定有形文化財【彫刻】
昭和34年8月24日指定

小鹿野1823・十輪寺

本像は、寄木造、漆箔。右手は施無畏の印をあらわし左手に蓮華を持つ。頭部に衆生の様々な願いに応える頭上面があり、室町時代前期の作と思われる。厨子は、元文元年(1736)江戸城の女官が寄進したものと記されている。もと札所15番蔵福寺か十輪寺末泉蔵院の旧仏と伝えられる。(像高51.5cm)



48 石造仁王尊立像 2軀・町指定有形文化財【彫刻】
昭和34年8月24日指定

飯田2201観音院・光源院 札所31番奉賛会

本像は、札所31番観音院の山門内に安置され、秩父地方の石仏の中では最大のものといえる。石材は凝灰質砂岩で、観音院裏山から掘り出し、引きおろした際の麻縄が保存されている。日尾の石工と信州伊奈の石工藤森吉弥一寿らによって明治元年(1868)に作られた。(阿行像、吽行像とも像高3.08m)



49 木造聖観音立像 1軀・町指定有形文化財【彫刻】
昭和34年8月24日指定

般若2661・法性寺

本像は、札所32番法性寺観音堂の本尊で右手は肘を折り掌を前に向け、左手に蓮華を持つ。頭部には透かし彫りの宝冠をつけ、像全体に漆箔が施され保存状態は良い。円満な顔立ちの美しい像で室町時代中頃の作と考えられている。厨子は常に開扉し、観音堂の格子越しに拝観できる。(像高137.0cm)



50 木造蔵王権現像 1軀・町指定有形文化財【彫刻】
昭和34年8月24日指定

般若2661・法性寺

蔵王権現は、修験の開祖役行者が修行中に感得したという悪魔降伏の菩薩で秩父の修験関係の像として貴重。顔は三眼、口を開き、髪を逆立てた忿怒の姿をあらわし、彩色が施される。片足をあげ足先を左手で持つ姿は珍しい。右手は欠失している。室町時代の作と考えられている。(像高21.0cm)



37 **蘭花芳香**(群玉筆) 1幅・町指定有形文化財【絵画】
昭和50年11月19日指定

藤倉647・守屋勝平

新井群玉は、藤倉村に生まれ、越後の絵師で南蘋派を代表する森蘭斎の門に入り、榊原家のお抱え絵師となり名声を博した。本図も南蘋派特有の繊細で写生的な描法を伝え、岩に根を張り小さな花を咲かせている蘭を描く。藤倉村の名主新井文饒が贈ったと伝える。(紙本墨彩、縦118.0cm、横53.5cm)



38 **双虎崖下疾駆之図**(群玉筆) 1幅・町指定有形文化財【絵画】
昭和50年11月19日指定

藤倉4906・高橋寅一郎

本画は、二匹の虎が崖を斜めに駆け降りる姿を躍動的に描いている。画面右上に「群玉山人」の落款があり、新井群玉の筆になるものである。彩色は少ないが細部の描き方は際だっており、虎の姿と草のなびく様子もよく調和し群玉の作品のなかでもすぐれたものである。(紙本、縦128.5cm、横69.5cm)



39 **絹笠神社天井画付絵馬2点** 町指定有形文化財【絵画】
平成2年11月26日指定

藤倉1342-2・山口邦夫ほか

絹笠神社は養蚕倍盛を願って大正13年に建てられ、天井板49枚に十二支や花、相撲、養蚕等の様子が昭和4年今井琴谷によって描かれた。琴谷は明治11年金澤村(皆野町)生まれ、黒沢墨山に師事し南宗派の画法を研究し花鳥、動物を得意とした。付属の絵馬2点は白牡丹と獅子、松、鶴を豊かな彩色で描く。



40 **紙本着色十二神将像** 2幅・町指定有形文化財【絵画】
平成5年9月8日指定

小鹿野267・上一丁目

鷹巣下薬師堂に納められている絵画で、薬師如来を守護する十二の夜叉大将を描く。極彩色を用いた緻密な技法で仏画としても優れている。中阿坊朴叟が天保6年(1835)に描いたと墨書がある。十二神将の画像としてたいへん珍しいもので作者や年代がはっきりしており当町の文化史上貴重な資料である。



41 **山水図屏風**(漢山筆) 六曲屏風 1隻・町指定有形文化財【絵画】
平成16年3月25日指定

小鹿野556-1・北ラウ

彩色は用いず山水樹石すべて水墨のみで描いた紙本淡彩の山水画。岩肌や木々まで丁寧な描法でまどめている。幕末に多くの作品を残した日尾の画家加藤漢山の大作。縦144cm、幅345cm。六曲の屏風で対となるものはなく詳しい来歴は伝えられていない。



42 **鰐口**(元禄十二年銘) 1口・町指定有形文化財【工芸品】
平成5年9月8日指定

小鹿野267・上一丁目

鷹巣下薬師を祭るお堂に掛けられていた鰐口。表面の銘文から、元禄12年(1699)江戸の鋳物師の作で小鹿野の初期開発者である出浦氏の寄進とわかる。鷹巣下薬師が江戸時代の早い時期から信仰されてきたことを示し、当時の数少ない資料として文化史上貴重な資料である。



43 **春日町屋台後幕刺繍原図** 1点・町指定有形文化財【工芸品】
平成5年9月8日指定

小鹿野1808・小池正二

本図は、春日町屋台後幕の見本として日本橋越後屋に作せたと伝わる。昭和56年の屋台修理では本図をもとに後幕が再現された。紺の絹地に松、酒壺と3体の狸が金・銀の糸で刺繍されている。明治初期の工芸品として芸術的価値が高く、屋台の変遷を伝える貴重な資料である。(縦63.0cm、横62.5cm)



44 **木造阿弥陀如来立像** 1軀・町指定有形文化財【彫刻】
昭和37年9月20日指定

下小鹿野1370普賢堂・普賢堂

本像は、檜材、寄木造、如来形の立像で、両手先と両足先が欠失しているが、来迎印を示していたと思われる。漆箔はほとんど箔落している。定朝様の特色が見られ、細身のすっきりとした姿に切れ長の眼を彫り、円満な顔立ちを持つ。平安時代末の造立と考えられる。(像高96.0cm、総高154.0cm)



45 **木造聖観音立像** 1軀・町指定有形文化財【彫刻】
昭和37年9月20日指定

飯田273日待堂・三田川1-1区

本像は、旧華藏寺本尊と伝わり、寄木造、体部は如来形の衣文を持つ。眼は玉眼、漆箔が施され、左手は蓮華を持っていたと思われる。髪を結びあげた髻、やや肉付きの良い顔や体部は鎌倉時代の様式を示し、13世紀末頃の造立と考えられる。やさしい顔立ちの美しい観音像である。(像高116.0cm)



46 **木造阿弥陀如来坐像** 1軀・町指定有形文化財【彫刻】
昭和37年9月20日指定

下小鹿野212・大徳院

本像は、寄木造、眼は玉眼、漆箔を施し、肉付きのよい顔、豊かな体部、整然とした衣の線などは定朝様の影響が見られるが、13世紀初め頃の作と思われる。すぐれた技法は、中央の仏師の作であることをうかがわせる。大徳院の開基、奈倉氏の持仏堂の本尊として造立したものと考えられる。(像高52.4cm)



47 **木造十一面観音坐像** 1軀・町指定有形文化財【彫刻】
昭和34年8月24日指定

小鹿野1823・十輪寺

本像は、寄木造、漆箔。右手は施無畏の印をあらわし左手に蓮華を持つ。頭部に衆生の様々な願いに応える頭上面があり、室町時代前期の作と思われる。厨子は、元文元年(1736)江戸城の女官が寄進したものと記されている。もと札所15番蔵福寺か十輪寺末泉蔵院の旧仏と伝えられる。(像高51.5cm)



48 **石造仁王尊立像** 2軀・町指定有形文化財【彫刻】
昭和34年8月24日指定

飯田2201観音院・光源院 札所31番奉賛会

本像は、札所31番観音院の山門内に安置され、秩父地方の石仏の中では最大のものといえる。石材は凝灰質砂岩で、観音院裏山から掘り出し、引きおろした際の麻縄が保存されている。日尾の石工と信州伊奈の石工藤森吉弥一寿らによって明治元年(1868)に作られた。(阿行像、吽行像とも像高3.08m)



49 **木造聖観音立像** 1軀・町指定有形文化財【彫刻】
昭和34年8月24日指定

般若2661・法性寺

本像は、札所32番法性寺観音堂の本尊で右手は肘を折り掌を前に向け、左手に蓮華を持つ。頭部には透かし彫りの宝冠をつけ、像全体に漆箔が施され保存状態は良い。円満な顔立ちの美しい像で室町時代中頃の作と考えられている。厨子は常に開扉し、観音堂の格子越しに拝観できる。(像高137.0cm)



50 **木造蔵王権現像** 1軀・町指定有形文化財【彫刻】
昭和34年8月24日指定

般若2661・法性寺

蔵王権現は、修験の開祖役行者が修行中に感得したという悪魔降伏の菩薩で秩父の修験関係の像として貴重。顔は三眼、口を開き、髪を逆立てた忿怒の姿をあらわし、彩色が施される。片足をあげ足先を左手で持つ姿は珍しい。右手は欠失している。室町時代の作と考えられている。(像高21.0cm)



51 どうぞう ざ おうごんげんぞう 1軀・町指定有形文化財【彫刻】
昭35年12月1日指定

下小鹿野1509・加藤義位知

本像も、秩父の修験関係の像と考えられる。室町時代の作で、近隣の仏師・鋳物師による室町時代の作と伝わる。口を閉じ、眼は三眼、髪を逆立て、右手を上げ手に三鈷杵(法具で武器をあらわす。)を持つ。左足で岩の上に立ち衣をなびかせて踊り躍する姿は、小さいながら重量感がある。(像高15.5cm)



52 もくぞう こくうぞう ぼさつ ざ ぞう 1軀・町指定有形文化財【彫刻】
昭44年4月16日指定

両神小森3848・今井太喜男

室町時代の特徴を伝える玉眼彩色の坐像で、大谷山能満寺(曹洞宗)の本尊と伝えられる。「新編武蔵風土記稿」には「大谷山能満寺本尊虚空蔵木彫坐像高2尺3寸伝教大師の作なり」と記されている。(像高29.8cm)



53 もくぞう しょうかんのん ざ ぞう 1軀・町指定有形文化財【彫刻】
昭45年7月2日指定

長留4031・観音寺

本像は、寄木造、彩色を施し、右手に蓮華を持ち、左手は欠失している。透かし彫りの宝冠をつける。美しい顔立ちの小像であるが、光背をつけ重層の台座にのる姿は威厳を感じさせる。台座内側に元禄4年(1691)、江戸本石町の仏師豊嶋良心の作と墨書がある。(像高31.5cm、台座を含む総高104.0cm)



54 もりげんこう さいえ ま 1面・町指定有形文化財【彫刻】
昭49年5月15日指定

両神薄2301-1・薬師堂護持会

この絵馬は、郷土の彫刻家・森玄黄齋が天保11年(1840)に薬師堂に納めたもので、縦35cm横42cmの額間に「め」の小文字を3000刻みこんでいる。表には「奉納 三千め」裏には「天保十一年庚子二月八日玄黄齋彫之」と記されている。精巧な工芸品として貴重である。



55 こうしんとう 1基・町指定有形文化財【彫刻】
昭51年9月24日指定

下小鹿野212・大徳院

60日ごとに訪れる庚申の日に寄り合い、飲食をともにして夜を明かす。これが庚申の日待ちである。この庚申塔は、天保10年(1839)奈倉耕地が施主となって建立した。上部に日(太陽)、月、中央に邪鬼を踏む青面金剛像、その両脇に二童子像を刻む。作風から森玄黄齋の作と伝えられている。(高さ97.0cm)



56 もりいへえ ふうさい ぞう 2軀・町指定有形文化財【彫刻】
昭51年9月24日指定

下小鹿野212・大徳院

奈倉の豪商森伊兵衛夫妻の姿を森玄黄齋が彫刻にしたものである。玄黄齋は、伊兵衛の二女とつ婿となり芸術家として名声を博した。玄黄齋が森家に入る天保2年(1831)以前の作。伊兵衛像が、像高17.0cm、妻紀登像が、像高22.5cmと小型であるが、よく風貌をとらえ、肖像彫刻として見事なものである。



57 もんじゅ ぼさつ ざ ぞう 1軀・町指定有形文化財【彫刻】
昭54年2月21日指定

伊豆沢1959文殊堂・伊豆沢沢浦・諏訪神社文殊堂保存会

本像は、伊豆沢文殊堂の本尊。丸みをおびた顔立ちに、切れ長の眼、高い髻を持ち、獅子の背にのる。一木造、彫眼の小像であるが量感に富み室町時代の作と推定される。獅子も同時期に作られ、正面を向き四肢を踏まえた安定感のある像で鎌倉時代の古様を伝えている。(像高29.5cm、獅子像41.0cm)



58-12 もくぞう こんごう りき しりゅうぞう 2軀・町指定有形文化財【彫刻】
昭61年2月26日指定

下小鹿野124妙見宮・奈倉耕地

下小鹿野奈倉の鎮守、妙見宮を守護する仁王像。天明3年(1783)江戸日本橋の仏師祐雲が造立し、嘉永元年(1848)に彩色を塗りがえた墨書がある。神社に祀られた仁王像は、類例が少なく神仏混交の時代の遺例として大変重要といえる。(像高、阿形像217.0cm、吽形像216.0cm)



59 もくぞう ふげん ぼさつ ざ ぞう 1軀・町指定有形文化財【彫刻】
昭63年2月22日指定

伊豆沢1959・伊豆沢沢浦・諏訪神社文殊堂保存会

伊豆沢の文殊堂本尊文殊菩薩像とともに安置されている脇仏。普賢菩薩は、智恵証の徳を司る文殊菩薩とともに釈迦の二脇侍として、仏の理・定・行の徳を司る菩薩である。本像は、一木造、彫目、彩色、白像の背の蓮台に乗る優美な姿をみせる。江戸時代の造立と考えられている。(台座を含む総高75.0cm)



60 もくぞう せんじゅ かのん ざ ぞう 1軀・町指定有形文化財【彫刻】
昭63年2月22日指定

伊豆沢1959・伊豆沢沢浦・諏訪神社文殊堂保存会

文殊堂本尊の文殊菩薩とともに安置される脇仏。一木造、彫眼、彩色。頭部に仏化面をつけ、42臂を数える。文殊菩薩と同様素朴な作風であるが古格のある技法を示し、面貌、衣文の造り等よく似ており、同一系統の仏師の作と考えられている。室町時代の作と推定される。(像高34.2cm台座高さ27.7cm)



61 もくぞう だいにちによらい ざ ぞう 1軀・町指定有形文化財【彫刻】
昭63年2月22日指定

伊豆沢1959・伊豆沢沢浦・諏訪神社文殊堂保存会

伊豆沢文殊堂に本尊の文殊菩薩とともに安置されている脇仏。本像は、寄木造、彫眼、彩色。菩薩形の頭部に八面の宝冠をつけ、胸前で智拳印を結んでいる。両腕、膝前、台座などは江戸時代の後補であるが、作風は、千手観音像とよく似ており、本像も室町時代の作と考えられている。(像高34.7cm)



62 もくぞう あみだ によらいりゅうぞう 1軀・町指定有形文化財【彫刻】
平成3年11月8日指定

両神薄3706・土橋宗英

大平の瀬戸山大円寺(臨済宗)の境内にあった阿弥陀堂の本尊と伝える。寄木造りで玉眼を嵌入し、肉髻珠、白毫珠に水晶を入れ、螺髪は旋毛形に切り付ける。鎌倉時代の作と推定される。(像高85.5cm)



63 もくぞう やくし によらい ざ ぞう 1軀・町指定有形文化財【彫刻】
平成11年4月8日指定

両神薄常木・行政区第5区

右手を下品印に結び、左手には薬壺を執り、蓮台上に結跏趺坐する薬師如来坐像。面相がきりっと引き締まり、彫刻の良さがうかがえるその堂々とした木取りは、鎌倉時代の作と推定される。(像高52.8cm)



64 たけだ こうざつ 1幅・町指定有形文化財【古文書】
昭34年8月24日指定

飯田840・光源院

本高札は、武田軍の高源院(光源院)に於ける乱妨・狼藉を禁じ、背いた者を非科に処するという掟書きである。永禄13年(1570)2月28日の日付と武田家重臣山県三郎兵衛の名が記され、二重円の中に龍を描く武田家の朱印がある。光源院は武田氏重臣逸見氏が開基と伝わる。(縦30.2cm、横40.4cm軸装)



65 ほうじょううしなほしじょう 1点・町指定有形文化財〔古文書〕
北条氏直書状 昭和35年9月5日指定

両神簿329・出浦信行

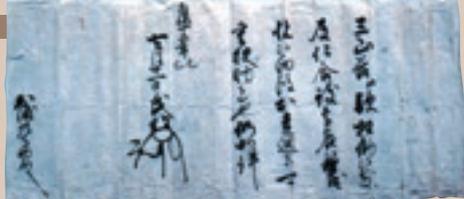
この書状は、小田原城主の北条氏直が鉢形城の北条氏邦に送ったもので、3月24日の日付がある。年号は記されていないが、内容から判断して天正13年(1585)のものだと推定される。



66 ほうじょううしなほしじょう 1点・町指定有形文化財〔古文書〕
北条氏邦書状 昭和35年9月5日指定

両神簿329・出浦信行

甲斐の武田軍が秩父に侵攻した際、三山谷の合戦で戦功のあった出浦左馬之助に対し、鉢形城主の北条氏邦が送ったもの。永禄12年(1596)7月11日の日付と氏邦の花押があり、戦国時代末期の貴重な古文書である。



67 おうばくもくあん ぼくせき 1巻・町指定有形文化財〔書跡〕
黄檗木庵の墨跡 昭和37年9月20日指定

下小鹿野1387・鳳林寺

木庵は、黄檗宗の名僧で、明の隠元が宇治に開いた黄檗山万福寺の二世。画家・書家としても有名で隠元、即非とともに黄檗の三筆に数えられ、貞享元年(1684)74歳で没した。この書は、鳳林寺三世中興萬谷順鶴が江戸で木庵と親交を持った際贈られたものと伝える。(縦108.8cm、横120.5cm、軸装)



68 けいちょう けいあん けん ちちょう 7冊・町指定有形文化財〔古文書〕
慶長・慶安の検地帳 昭和44年4月16日指定

両神簿329・出浦信行

この検地帳は、薄村検地帳42冊(上郷組20冊、中郷組7冊、下郷組10冊、薬師堂組5冊)のうち中郷組世襲名主・出浦家に伝わったものである。慶安5年(1652)6月23日から29日まで行われた薄村中郷の田畑と屋敷についての計測が記録されている。また、同家には太閤検地と呼ばれる慶長3年(1598)地誌御帳1冊も保存され、秩父地域では5例のみ残る貴重なもの。



69 よしだ けもんじょ 町指定有形文化財〔古文書〕
吉田家文書 昭和45年7月2日指定

小鹿野1882・吉田久子

吉田家は、戦国時代に北条氏邦の家臣となり、上州方面を知行した。元和年間(1615-1623)小鹿野に入り、名主等をつとめ、戦国時代から明治初年までの古文書約100点が伝わる。「吉田系図」は北条氏から発給された23点の中世文書が書き写される。小鹿野陣屋関係文書なども貴重。



70 めいれき けん ちちょう 町指定有形文化財〔古文書〕
明暦検地帳 昭和45年7月2日指定

小鹿野町教育委員会

河原沢の商家に伝わったもの。商家は、戦国時代北条氏邦の家臣となり、その後河原沢に居住し世襲の名主をつとめた。明暦元年(1655)の「三山河原沢検地帳」が15冊保存される。これにより河原沢村には、畑地3073筆と屋敷121戸、寺院3か寺があったことがわかり、江戸時代初期の当地域の様子を知る上で貴重な史料である。



71 たじま けもんじょ 町指定有形文化財〔古文書〕
田嶋家文書 昭和45年7月2日指定

小鹿野1855・田嶋健一

田嶋家は、戦国時代以降小鹿野に居住したと伝え、江戸時代を通じて世襲の名主をつとめた。元和元年(1615)の小鹿野郷年貢割付状などの江戸初期の地方文書のほかに、文政4年(1821)小鹿野の上・中・下町三宿の市場議定書や上小鹿野村絵図など、小鹿野の町並みの変遷を伝える貴重なものがある。



72 さかもと けもんじょ 町指定有形文化財〔古文書〕
坂本家文書 昭和45年7月2日指定

長留2780・坂本義明

坂本家は、戦国時代には北条氏邦の家臣となりその後長留藤平に居住し世襲の名主をつとめた。近世文書2668点、近代文書915点、計3583点を数える。慶安5年(1652)の長留上郷検地帳9冊をはじめ、よくそろった土地、年貢関係文書のほか村絵図など長留村の移りかわりを示す貴重なものが多い。



73 あらい けもんじょ 町指定有形文化財〔古文書〕
新井家文書 昭和45年7月2日指定

藤倉2414・新井幸男

新井家は、戦国時代北条氏邦に仕え、江戸時代は藤倉村八谷に居住し、年番名主、次いで世襲名主をつとめた。古文書は、近世文書398点、近代文書53点、計451点が伝えられている。日尾荆山の高弟、新井文鏡が名主として活躍した際の文書も多い。土地・年貢関係文書の他山林経営等の貴重な資料が多い。



74 さかもと けもんじょ 町指定有形文化財〔古文書〕
坂本家文書 昭和47年1月12日指定

長留3575・坂本鶴吉

坂本家は、長留皆谷に居住し代々三郎左衛門を名のり世襲名主をつとめた。古文書は60点が伝えられ、慶長3年(1598)の「武蔵国秩父郡長留之御地誌帳」は秩父では長留村、太田部村、薄村、黒谷村、大淵村の5例のみが残る最古の検地帳として貴重。他に村絵図等地域の状況を伝える古文書が多い。



75 こうげん いっ とうりゅうしん もんじょ 39冊・町指定有形文化財〔古文書〕
甲源一刀流神文書 昭和49年6月9日指定

両神簿167・逸見知夫治

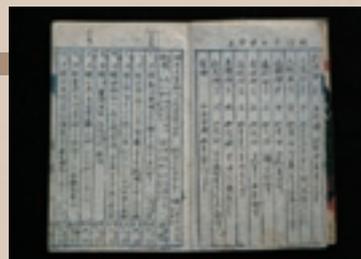
神文書とは、神の名によって行う誓約書のこと。甲源一刀流への入門にあたり署名血判したもの。甲源一刀流の門弟は往事3千人を超えたといわれ、全国規模におよぶ。神文書は文化8年(1811)に記されたものを始め39巻伝えられている。このほか同文の文書も多く残る。



76 もっこうどう にっき 17巻・町指定有形文化財〔古文書〕
木公堂日記 昭和49年5月15日指定

両神簿1309・加藤政信

大塩野の柴崎谷蔵・秀蔵の親子2代によって、つづられた農民日記。本日記は、一名(日間可記)と記し木公堂青雪誌とあることから、木公堂日記といわれるようになった。慶応3年から大正15年にかけて、つづられたもので全17巻に及ぶ。太陽・太陰暦日、天文、経済、産業、交通など幅広い分野にわたり当時の農民生活が興味深く記されている。



77 いわた けもんじょ 町指定有形文化財〔古文書〕
岩田家文書 昭和53年6月22日指定

小鹿野310・加藤録郎

岩田家は、戦国時代、北条氏邦の家臣でその後白鳥村(長瀬町)薬師堂(両神村)を経て上小鹿野村に居住し、割元名主(数ヶ村の行政を担当する)をつとめた。近世文書166点、近代文書24点の計190点が伝えられる。慶安5年(1652)の上小鹿野郷検地帳のほか当地域の地誌なども貴重な資料が多い。



78 しばさき けもんじょ 町指定有形文化財〔古文書〕
柴崎家文書 昭和56年4月16日指定

小鹿野259・柴崎重子

柴崎家は、江戸時代より豪商として知られ、明治時代は生糸・米等の売買のほか郵便事業、運送業など幅広く営業した。近代文書を中心に約200点が伝えられている。明治6年(1873)から明治17年までの初期郵便関係文書39点は貴重。小鹿野駅伝組合、内国通運会社関係文書、日記類なども好史料である。



79 ^{だいはんにゃきょう} **大般若経** 600巻・町指定有形文化財〔古文書〕
平成11年11月24日指定

伊豆沢1959・伊豆沢沢浦・諏訪神社文殊堂保存会

伊豆沢文殊堂の縁日に転読される大般若経。50巻ずつ12の箱に納められ、うち189巻に奉納者の名前が記されている。安永7年(1778)から寛政13年(1801)の間に秩父郡内、江戸を始め越後から伊勢など広範囲の人々によって奉納され、信仰の広がりやを示す貴重な資料である。



80 ^{だいはんにゃきょう} **大般若経** 6巻・町指定有形文化財〔古文書〕
平成11年11月24日指定

般若2661・法性寺

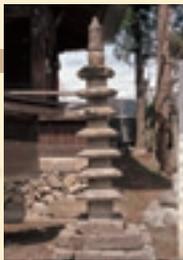
般若(智恵)の立場から一切の存在はすべて空であるという空観思想を説く最大の仏典。一夜にして600巻を書き写した僧が訪れた「般若」という地名の起源ともなった大般若経で6巻が現存している。奥書に永和2年(1377)の年号が記され、南北朝から室町時代の数少ない資料として貴重なもの。



81 ^{しちじゅうとう} **七重の塔** 1基・町指定有形文化財〔歴史資料〕
昭和49年5月15日指定

両神薄2301-1・薬師堂護持会

薬師堂本堂の前面左側に建つ石造の七重の塔。塔頂まで3m、幅60cm、高さ27cmの角柱石材に60cmの方形型の屋根を載せる。相輪も石材製である。薬師堂の信者、岩田氏により延宝5年(1677)12月に奉納された。小鹿野市街地の初期開発者でもある岩田氏は薬師堂にあった市の権利を有し、七重の塔は、当地域の経済史を知る上でも貴重な資料である。



82 ^{ひなわじゅう} **火縄銃** 1式・町指定有形文化財〔歴史資料〕
平成9年4月25日指定

藤倉322・酒井和三

作物を荒らす猪などの駆除を行うため、領主から特別の許可を受けた四季打鉄砲で江戸時代とほぼ同様な状態で保存されている。火薬入れ、玉、烏口(玉入れ)、玉鑄型、火縄などの付属品も良く残っている。江戸時代末の木製鑑札2枚が伝わっている。全長136.7cm、口径1.1cm



83 ^{ひなわじゅう} **火縄銃** 1式・町指定有形文化財〔歴史資料〕
平成9年4月25日指定

藤倉644・南定雄

作物を荒らす猪などの駆除を行うため、領主から特別の許可を受けた四季打鉄砲で江戸時代とほぼ同様な状態で保存されている。弘化3年(1846)「藤倉村下郷獵師四季打鉄砲御鑑札願」と万延2年(1861)「鉄砲御廻状請印写」の古文書及び木製鑑札も伝わっている。全長106.5cm、口径1.4cm



84 ^{ひなわじゅう} **火縄銃** 1式・町指定有形文化財〔歴史資料〕
平成9年4月25日指定

藤倉4791・飯塚隆太郎

明治時代初期に神社の奉納的当てに使用したと伝わっている。火打ち石や鹿骨製の雉笛などが付属し、伝統的な狩猟用具としても貴重である。全長137cm、口径1.2cm



85 ^{かつちゅう} **甲冑** 1領・町指定有形文化財〔歴史資料〕
平成10年3月25日指定

藤倉2411・新井武記

藤倉村強矢の名名家から新井家が受け継いだもので、鉢形城に仕えた強矢弾正のもとと推定される。戦国末期の甲冑で兜は阿古陀形の六十間筋兜、胴は二枚桶側胴、籠手、草摺、佩楯、脛当などのほか鑑櫃も残されている。



86 ^{かつちゅう} **甲冑付火事装束兜、陣羽織** 1領・町指定有形文化財〔歴史資料〕
平成10年3月25日指定

小鹿野292-3・新井忠雄

藤倉森戸の新井家に伝わった鎧。江戸時代に旅籠と商店を営んでいた新井家を訪れた落武者が野良着と交換したと伝わる。戦国時代から江戸時代にかけて作られた当世具足で胴は二枚桶側胴、佩楯は正平革を使用している。江戸時代の火事装束の兜と陣羽織も伝わっている。



87 ^{はんやむらこうさつ} **般若村高札** 9点・町指定有形文化財〔歴史資料〕
平成11年3月25日指定

小鹿野町教育委員会

江戸時代の般若村名主、守屋家で正徳元年(1711)から慶応4年(1868)に作成された高札9点。十六善神社(日本武神社)境内にあった高札場に掲示されたもの。火付・徒党強訴の禁止、キリシタン禁制、鉄砲禁制、明治新政府が示した五榜の掲示などが記されている。江戸時代から明治維新までの歴史を伝える実物資料として貴重。



88 ^{こうげんいっとうりゅうかた} **甲源一刀流の形** 町指定無形文化財
昭和54年3月19日指定

両神薄167・逸見知夫治

甲源一刀流の開祖・逸見太四郎義年が、霊山の両神山にこもって剣技を磨き、妙剣の技を会得したという。甲源一刀流の形は、実戦に即応したものとされ、その発展した形が長剣20本、小太刀5本計25本の形になった。その1本目が妙剣で小説「大菩薩峠」の音無しの構えになったといわれる。



89 ^{へんみけかご} **逸見家の駕籠** 1基・町指定有形民俗文化財
昭和49年6月5日指定

両神薄167・逸見知夫治

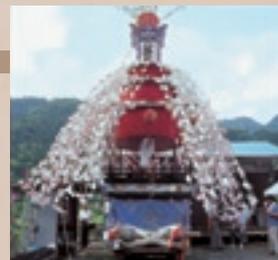
甲源一刀流逸見家に伝わる駕籠で、江戸時代に造られた黒漆塗仕上げのである。同家の当主が乗り物として使用したもので民俗資料としても貴重。逸見家にはもう1基の駕籠も伝えられている。



90 ^{さんやましごうかさぼこ} **三山下郷笠鉦** 1基・町指定有形民俗文化財
平成2年3月4日指定

三山111-1・三山下郷耕地

三山下郷の鎮守八坂神社の祭り(7月22日頃〔不定期〕)に飾り置きされる笠鉦。耕地一体となって2年掛かりで大正11年に建造された。大正14年に電線架設のため2層に改造されたが、平成元年に3層復元された。反木の長さ3.5m、高さ約8mを測り保存状態も良い。



91 ^{はぐるじんじゃそうごじんじゃかさぼこ} **羽黒神社(宗吾神社)の笠鉦** 1基・町指定有形民俗文化財
平成2年11月26日指定

長留3543-2・羽黒神社・長留仲祖文化財保存会

明治30年、大宮町(秩父市)の宮大工久番匠により建造された。反木の長さ3.5m、幅1.45m、高さ約12m。勾欄下の腰支輪の彫刻もよく残り、正面に4段の登り勾欄が付く。明治41年、車輪が破損し長く曳行されなかったが、昭和21年に修理された。その後も組立・曳行は少なく昭和63年・平成18年に飾り置きされた。



92 ^{はぐるじんじゃそうごじんじゃまいでん} **羽黒神社(宗吾神社)の舞殿** 1棟・町指定有形民俗文化財
平成2年11月26日指定

長留3543-2・羽黒神社・長留仲祖文化財保存会

明治初期建造の歌舞伎舞台で、間口9.13m、奥行5.52m、高さ7.57m。歌舞伎上演時には花道、両棧敷、太鼓張りの屋根が付けられた。もと羽黒神社の参道中腹に建てられたが、大正4年山崩れのため、現在地に移転改築された。平成2年に地元総出で妻やら屋根の葺き替えにあたるなど良く管理されている。



やくしどう のうさつ
93 薬師堂の納札(3点) 3点・町指定有形民俗文化財
平成3年11月8日指定

両神薄2301-1・薬師堂護持会

薬師堂の霊験は、峰の薬師として中世には広く知られており、加えて秩父札所の結願間近の中継点として多くの巡礼が足跡を残している。薬師信仰と観音信仰の重層的な信仰形態をさぐる上で納札3点と壁面、柱類の墨書は貴重である。この納札は、堂内の屋根裏に打ち付けてあったもので損傷が著しいが、そのうち1点に天正7年(1580)の記載がある。



やたい
94 大塩屋台 1基・町指定有形民俗文化財
平成13年11月16日指定

両神薄898-1・八坂神社

大塩野の八坂神社の祭りに曳行される屋台。文化13年(1816)建造といわれる。車輪は、直径1.14m、厚さ21.5と大型で良質なものを。反木の長さ5.36m、正面幅2.16m、高さ約5.5mを測り、農村部では珍しい大型の屋台である。屋根は唐破風で龍・雲・鶴・応婦人(琴の名手)の見事な彫刻が各部に施されている。張出し、芸座・花道の設備を持ち歌舞伎が上演できる。昭和30年頃まで曳行と屋台芝居が行われていたが中断、平成13年に組立が復活、現在は、5月4日の祭りに飾り置きされている。



いいた やたい
95 飯田屋台 1基・町指定有形民俗文化財
平成15年5月21日指定

飯田2778-3・上飯田耕地

八幡神社の祭り(鉄砲祭り)に曳行される屋台。大宮郷中町(秩父市)の古い屋台部品や明治時代に奈倉から購入した屋台などが組み合わされる。反木の長さ5.34m、正面幅2.46m、高さ5.46m。彫刻類に寛政5年(1795)の年号があり、秩父地方で最古の屋台といわれる。張出舞台、花道、芸座を組立て、歌舞伎が上演できる設備がある。



やはたじん じゃ かさほこ
96 八幡神社の笠鉾 1基・町指定有形民俗文化財
平成15年5月21日指定

飯田2778-3・八幡神社

八幡神社の笠鉾は江戸時代から曳行されたというが、明治末期に黒海土から購入した部品と昭和10年に譲られた秩父市本町の夏祭り笠鉾を組み合わせている。反木の長さ3.48m、正面幅1.83m、高さ5.4m。1層の笠にせき台と天道が上に付く。笠鉾は神社が管理し、飯田下郷・中郷の人々により曳行される。



たけのたいら ししまい
97 竹平の獅子舞 町指定無形民俗文化財
昭和35年9月5日指定

両神薄竹平・竹平獅子舞保存会

諏訪神社の祭り(10月第2日曜)に五穀豊穡・悪霊退散を祈願して行われる獅子舞。秩父地方に伝わる獅子舞のうちでも古い形をよく残す。獅子頭は大王・雌獅子・雄獅子の3頭からなり、花笠2人も付く。囃子は、笛・大太鼓・歌い方7人で構成される。祭礼当日、御神体を先頭に行列を作り村内5か所まで舞う「御神幸」が行われ、神社へ戻って再び舞が奉納される。



ながる ししまい
98 長留の獅子舞 町指定無形民俗文化財
昭和35年12月1日指定

長留3543-2宗吾神社・羽黒神社・長留組文化財保存会

羽黒神社は諏訪神社、宗吾神社を合祀し、10月体育の日の祭りに長留組の氏子によって獅子舞が奉納される。起源は明らかではないが江戸時代からの伝統を受け継ぐ。獅子は、先・中・後の3頭で衣装は、襦袢に袴を付けるが、宮参り及び神社の拝殿で舞う時は足袋、街道沿いの舞殿では素足である。



かしわざわ だいたい かくら
99 柏沢太々神楽 町指定無形民俗文化財
昭和46年9月1日指定

両神薄柏沢・柏沢神楽保存会

柏沢耕地内の公会堂内に仮の神楽殿が造り込まれ、4月4日の春祭りに神楽が奉納されている。明治3年に児玉郡仁手村の神楽から習ったのが創始といい、明治16年に面や衣裳などの道具類が新調された。現在は、猿田彦命四方剣持など15の座が舞われる。両神神社祭礼など耕地外での奉納神楽は年間7回を数える。



ながく ぼ かくら
100 長久保神楽 町指定無形民俗文化財
昭和49年2月25日指定

日屋2354八坂神社・長久保神楽保存会

4月第1日曜日の養蚕神社の祭りに行われる神楽。明治24年(1891)、養蚕の豊作祈願に井上(秩父市下吉田)貴布祢神社神楽を習い伝えたことに始まる。神楽の座は大太鼓、小太鼓、鼓、笛からなり神楽面や衣装もよく保存されている。一神一座形式で30座を数える。それぞれ神話に題材をとった黙劇風の神楽である。



うらしまねん ぶつ
101 浦島念仏 町指定無形民俗文化財
昭和49年5月15日指定

両神薄浦島・浦島耕地

年2回、春秋の彼岸の中日の夜に浦島の公会堂で行われる。以前は1・6月を除き各戸順送りの宿で毎月行われていた。広げると10畳ほどになる特大の数珠を用いること、唄文に「ハハア」という独特な節回し入ることが特徴である。



かしわざわ
102 柏沢ちんぢんめえり 町指定無形民俗文化財
昭和49年6月20日指定

両神薄柏沢・柏沢耕地

柏沢耕地内にある一族が守る7つの鎮守を提灯行列で回る行事。体育の日(10月第2月曜)に行われる。夕刻、天狗の面をつけた猿田彦を先導役にして、神官・行事・笛方・大太鼓・小太鼓・各家の弓張提灯を持った参拝者が行列を作り、お囃子に合わせ「ちんじんめえりヨーイヨイ」の掛け声を発しながらおごそかにお参りする。



なぐら かくら
103 奈倉神楽 町指定無形民俗文化財
昭和51年9月24日指定

下小鹿野212大徳稲荷・奈倉神楽保存会

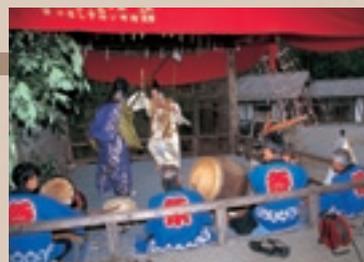
大徳稲荷大明神の祭りに奉奏される神楽。3月最終日曜日に地元の人々が神楽殿を組み立てて行っている。神楽の創立は昭和25年(1950)、中蒔田(秩父市) 椋神社神楽を習い、始められた。楽は、大太鼓、小太鼓、鼓、笛からなり、20座が伝わる。神楽面や衣装は手作りして耕地中で神楽を支える姿が見られる。



しょうでん かくら
104 聖天神楽 町指定無形民俗文化財
昭和54年2月21日指定

般若2690秩父大神社・聖天神楽保存会

4月15日の秩父大神社(聖天宮)の祭りに行われる神楽。明治14年(1881)、根古屋(横瀬町)の武甲山御嶽神社里宮神楽から教えを受け、現在まで伝えられている。神楽の構成は、以前は24座あったというが現在14座を舞う。楽は、大太鼓、小太鼓、鼓、笛からなる。後継者養成も熱心に行われている。



まにわ あまさけ
105 間庭の甘酒まつり 町指定無形民俗文化財
昭和54年3月19日指定

両神小森間庭・行事

間庭・栃本・白沢の耕地で祭る天王社で7月最初の土用の日に甘酒を造って奉納する祭り。「300余年前の夏に疫病が大流行した際、土地の人々が手作りの麦甘酒を醸して、悪疫払いの祈願をしたところ、蔓延した流行病が治まった」と伝えられる。大幣を先頭に、甘酒の入った樽御輿を子供たちがかつぎ、各氏子の家々を厄除けのお祓いをして回ったが、近年は中断している。



まつい だかくら
106 松井田神楽 町指定無形民俗文化財
昭和55年4月18日指定

長留321-1琴平神社・松井田神楽保存会

4月4日の琴平神社の祭りに奉納される神楽。松井田太々神楽とよばれる。明治23年頃から、吉田町井上の貴布祢神社神楽から教えを受け、現在まで伝えられている。神楽の構成は18座あり、楽は大太鼓、小太鼓、鼓、笛からなる。神楽面や衣装は、平成11年に新調された。



じゅうろくかくら
107 十六神楽 町指定無形民俗文化財
昭和56年4月16日指定

般若629日本武神社・十六神楽保存会

日本武神社の祭り(3月第2土曜日)に、歌舞伎舞台を兼ねる神楽殿で行われる神楽。明治5年ごろ、井上(秩父市下吉田)の貴布祢神社神楽から伝授された。神楽面や衣装は、明治22年に作られたものが現在でも使われている。神楽の座は17座あり、楽は大太鼓、小太鼓、鼓、笛からなる。



すすかわ ししまい
108 煤川の獅子舞 町指定無形民俗文化財
昭和61年7月15日指定

両神小森煤川・煤川獅子舞保存会

4月15日の宇賀神社の祭りに奉納される獅子舞。耕地内の家を、一軒一軒お払いして回ることが特徴といわれる。太夫獅子、雄獅子、雌獅子の三頭一組で舞う立ち形式で、弘法流の流れをくむササラ獅子といわれる。現在幣掛かり等7、8座の舞が伝わっている。



くら おじんじゃ ながはたつ はなび
109 倉尾神社の長旗つき煙火 町指定無形民俗文化財
昭和63年2月22日指定

藤倉3135・倉尾神社 煙火保存会

10月1日の倉尾神社の祭りに行われる打ち上げ煙火。奉納者の名を書いた旗が仕組まれ、破裂した後、落下傘で落ちてくる。起源は江戸時代までさかのぼると伝わる。昭和30年代に火薬の使用規制により休止し、昭和60年に復活した。技術、口上、囃子などの面でも他に例がなく地域性が顕著な行事である。



こもりかぶき
110 小森歌舞伎 町指定無形民俗文化財
平成17年6月9日指定

両神小森・小森祭りと文化を守る会

小森諏訪神社の祭り(10月第2土曜)の付け祭りとしての歌舞伎奉納は江戸時代後期より始まるといわれる。明治14年には一週間に渡る歌舞伎上演が行われ関東随一の歌舞伎と称されたという。大正から昭和にかけて地元小森若座が結成、昭和28年に現在も舞台として使う諏訪森記念館が建てられるが昭和38年以後上演が休止。平成12年に復活し、組織を充実させて地域の歌舞伎上演を行っている。



いすさわ てんきうらな まとや しんじ
111 伊豆沢の天気占い(的矢の神事) 町指定無形民俗文化財・県選択無形民俗文化財
昭和37年9月20日指定、平成9年3月18日県選択

伊豆沢1959諏訪神社・伊豆沢沢浦・諏訪神社文殊堂保存会

2月11日に諏訪神社で行われる天気占いの行事。宮元と称する3軒の家が奉仕し、弓矢作りも行う。杉林に立てられた的に約10m離れ、最初に悪魔っ払いの矢2本で的を射越し、次いで6本の矢を交代で繰り返し射して12か月の天候を占う。的はずれの月は風、白に当たれば晴、黒は雨が多いとされている。



もうえ つがゆ しんじ
112 馬上のクダゲエ(管粥)(筒粥の神事) 町指定無形民俗文化財・県選択無形民俗文化財
昭和37年9月20日指定、平成9年3月18日県選択

藤倉620諏訪神社・馬上耕地

1月14・15日に諏訪神社で行われる小正月の粥占い行事。クダゲエ(管粥)とよばれる。14日は約10に切った篠竹を45本簾編みに巻いたものを粥と一緒に炊きあげる。15日朝、管を割り、言い伝えと経験をもとに一年間の天候、30種の作柄、雨、風、大世を占う。行事はすべて耕地の人々によって行われる。



やまだ ひゃくばい ぼひ
113 山田百梅の墓碑 1基・町指定史跡
昭和34年8月24日指定

下小鹿野3586正永寺・正永寺

山田百梅は小鹿野で薬種商を営み、俳人建部涼袋に師事した。涼袋は、天明俳壇を代表する俳人で「秩父三十四所観音霊験円通伝」の作者としても知られる。百梅は涼袋の経済的後援者となり、江戸浅草の吸露庵の建設にも尽力し、延享4年(1747)に没した。墓碑に百梅の句を涼袋が揮毫した碑文が刻まれる。



つか
114 お塚(古墳) 1基・町指定史跡
昭和34年8月24日指定

般若927・日本武神社

お塚は、長留川左岸の段丘上に位置する高さ約3m、直径約15mの円墳で古墳時代後期、7世紀頃のものとして推定される。墳頂部には「お塚権現」と称する小祠が祀られる。地元では、群馬県吉井町の多胡碑にまつわる伝説上の人物、羊太夫の墓とする言い伝えがあり、当地域の伝説との関連が注目される。



ひ おじょうあと
115 日尾城跡 町指定史跡・県選定重要遺跡
昭和37年9月20日指定、昭和51年10月1日選定

日尾2235ほか・関口和夫 坂本兵三郎

上州方面から進出する武田勢に対して築かれ、北条氏邦の家臣・諏訪部遠江守定勝が居城した。永禄年間(1558-69)には存在したと考えられ、天正18年(1590)鉢形城の落城で使命を終えた。主郭部の標高は、556.4m。東西に小規模な郭が直線的に並ぶ。自然地形を巧みに利用した典型的な山城である。



な くらやかたあと
116 奈倉館跡 町指定史跡
昭和37年9月20日指定

下小鹿野18・田島康久ほか

赤平川左岸の段丘上の東西約100 m南北約100 mの範囲が館跡と推定される。西側は八幡沢で区切られ、段丘の最先端部に約70mの石壁がL字形に残る。石壁は幅3~5m、高さ約1 m、中央部に小口がある。奈倉行家、重家、重則の三代が居住し、永禄13年(1570)武田氏の秩父侵入により攻め落とされたという。



こうざつ ば
117 高札場 1棟・町指定史跡
昭和37年9月20日指定

下小鹿野1380・八剣神社

江戸時代、上意下達の方法として各村々の中央、代官、名主等の屋敷前に高札場が設けられた。この高札場は、下小鹿野村の高札場で江戸時代末の建造と推定される。間口2.65m、奥行1.56mを測り、栗材が使用されている。屋根は切妻造で高さ約2.7m、柱は榿材を用いている。平成7年に復元修理された。



ふだしょさんじゅういちばんしゅうくつざんかんのんいん
118 札所三十一番鷲窟山観音院 町指定史跡
昭和37年9月20日指定

飯田2201観音院・光源院 札所31番奉賛会

観音院は、明治初年までは本山派修験に属していた。仁王門から急な石段をのぼる本堂は、明治26年に焼失後昭和47年に再建された。聖観音菩薩を本尊としている。堂の上には高さ約30mの滝が落ちる岩窟があり鷲のいわやとよばれている。境内には鷲窟磨崖仏、大型宝篋印塔、芭蕉句碑、多数の石仏群がある。



ふだしょさんじゅういばんはんにゃさん ほうしゅうじ
119 札所三十二番般若山法性寺 町指定史跡
昭和37年9月20日指定

般若2661・法性寺

江戸中期の曹洞宗改宗以前は密教系の寺と伝える。山門は、鐘樓門とよばれ、一階に仁王像を安置し、二階に鐘を吊る珍しい建築である。本堂は薬師如来を本尊とし、室町時代の大般若経など寺宝が多い。宝永4年(1707)建立の観音堂は懸造りで奥の院のお船の巨岩とあわせて荘厳な雰囲気をもつ札所である。



ひ おけいざん せい ち
120 日尾荊山の生地 町指定史跡
昭和37年9月20日指定

日尾1492・倉尾文化財保存会

日尾荊山は、寛政元年(1789)日尾に生まれ、手習師匠加藤見龍のもとで勉学に励み15歳で太田部村の手習師匠となった。江戸で儒学者亀田鵬斎の門人となり、儒学・国学を学び日尾点と称する漢文の独創的な読み方・解釈を生み出し、多くの門人を育てた。数多くの著書を残し安政6年(1859)71歳で没した。



121 あさかごんさい おがのひ 安積良斎の小鹿野碑 1基・町指定史跡 昭和37年9月20日指定

下小鹿野1299小鹿神社・小鹿神社

「日本武尊神詠、つくばねをはるかへだててやふかみし つまこひかめるをしかのの原」と刻まれ、江戸昌平平巽の教官安積良斎(1791-1860)の撰文がある。安政6年(1859)下小鹿野村の森為美が、日本武尊の由来を伝えるため撰文を依頼し碑を建てたものという。美しい伝説を伝える碑として親しまれている。



122 たけうち じよはか ほうしやう 竹内いし女墓・褒賞 1基、1個・町指定史跡 昭和38年12月24日指定

両神簿3389、両神簿2906・竹内玉衛・小鹿野町

明治の7大孝子と称された竹内いしの墓。いしは、天保4年(1833)に薄村の貧しい農家に生まれ、12歳の時から両親の病苦と家の経済とを助け、18歳のとき村の医師・堤家の下女となったが、両親への孝道を怠らず給金のすべてを医療・生活費に充てたという。後に緑綬褒章を下賜され、大正2年に没した。昭和10年から20年まで国定教科書に孝子ぶりが紹介された。



123 かとうたみやせんせいひ 加藤民也先生碑 1基・町指定史跡 昭和49年5月15日指定

両神簿1633・加藤恭一

加藤民也は、嘉永4年(1851)生まれ。両神村の教師として、学制領布直後の小森学校・四阿屋学校に奉職し、師弟の教導に尽力した。明治27年に没した後、師弟たちが生家の近くに徳を慕って明治41年に記念碑を建立したものである。



124 こうげんいつとうりゅうへんみあいさくじゅひ 甲源一刀流逸見愛作寿碑 1基・町指定史跡 昭和49年6月9日指定

両神簿94-3・逸見知夫治

甲源一刀流29世・逸見愛作の履歴を記した石碑で、明治33年に建立された。逸見愛作は天保11年(1840)生まれ、父太四郎長英の跡を継ぎ剣世6代として名声を博した。明治維新の廃刀後も剣をもって修業と門弟の指導に励み、薄村戸長として村の発展に尽くし「小沢口の先生」として敬慕された。幕末から明治時代に活躍した政治家・榎本武揚が篆額を、撰文と書を両宮春譚が行っている。



125 いでうらいちろうざえもんしょうとくひ 出浦市郎左衛門頌徳碑 1基・町指定史跡 昭和49年6月20日指定

両神簿3574・出浦信行

出浦家は、江戸時代における薄村4組のうちの一つ、中郷名主を世襲で勤めた旧家。市郎左衛門は、天保13年(1842)に、兄の死により名主役について以来、幕末の動乱期から明治の激動期をのりこえた人物。この間、近隣の子供たちに寺子屋の師匠として教育を行う。頌徳碑は、明治25年に門弟たちの手によって柏沢産の自然石を用いて建立された。



126 しょだいおとわやひこころうひ 初代音羽屋彦五郎の碑 1基・町指定史跡 平成2年11月26日指定

下小鹿野1949・根岸等

秩父歌舞伎の創始者、坂東彦五郎の門弟の一人、初代音羽屋彦五郎を名乗った三島の根岸勇三郎(1803~1867)の碑。各地より役者を集め「勇佐座」を組織し、小鹿野歌舞伎隆盛の基礎を作った。碑は58名の弟子・寄進者達によって作られ、側面に「おくらるる足どり揃う霜の道」と辞世の句がある。



127 おしかづか 小鹿塚 町指定史跡 平成6年12月21日指定

下小鹿野861-4ほか・小鹿野町

下小鹿野地内に50基ほど点在する古墳の一つで小鹿原古墳群に属す。古くから日本武尊の伝説を顕彰する聖地として親しまれている。昭和29年には秩父宮御染筆「小鹿野碑」が建てられ庭園として整備され、その折古墳時代の直刀が出土した。小鹿野の歴史の深さを物語り、町民の誇りとする美しい場所である。



128 ようばけ 町指定天然記念物 昭和37年9月20日指定

長留34ほか

赤平川右岸にある高さ約100m、幅約400mの崖でこの地層は、約1,500万年前の新生代第三紀に比較的浅い海の中で主に泥が堆積して形成された。地層の露出状態は有数の規模を誇り、地質見学の拠点となっている。昭和52年3月県自然環境保全地域に指定された。語源は「陽」のあたるハケ(崖)という。



129 こたかじんじやすぎ 古鷹神社の杉 3本・町指定天然記念物 昭和48年1月10日指定

三山1195・古鷹神社

三山の鎮守、古鷹神社の境内に高く聳え、かつては参道の両側に22本の杉が植えられていたが現在は次の3本が残る。①目通り周囲6.21m、樹高39m、②同4.7m、39m、③同5.01m、40m。樹齢はいずれも400~500年と推定される。信州・上州道の通行の目印となったと思われる。



130 いっほんすぎとうげすぎ 一本杉峠の杉 1本・町指定天然記念物 昭和48年1月10日指定

小鹿野2310・瀬谷卓美

一本杉峠は、腰之根から下吉田の橋倉を経て吉田町へ通じる道であり、小鹿野町と吉田町の境となる。標高355m。『新編武蔵風土記稿』に「一本杉峠、是も村ノ北ニアリ登リ三町許下吉田村ヘノ往来ナリ」と記される。目通り周囲5.8m、樹高約35m、枝張りは30m四方に及ぶ。樹齢は500年と推定される。



131 へんみけけやき 逸見家の樺 14本・町指定天然記念物 昭和48年1月10日指定

伊豆沢39・逸見善子

逸見家は、天文年間(1532-1554)に甲州から移住したと伝える。樺は屋敷地の崩壊を防ぎ、防風林としても生かせるよう植えられたという。約1,000㎡の面積に14本生育し、最大のものは、目通り周囲4m、樹高約26mを測り樹齢400~450年と推定される。樹勢は良好で樺の林相としても貴重なものである。



132 さかもとおお 坂本の大もみじ 1本・町指定天然記念物 昭和58年3月29日指定

河原沢771

坂本集落北側にあるカエデの大木。目通り周囲2.5m、樹高20.5mを測る。樹齢は200年と推定される。本樹はヤマモミジといわれるが、巨木としては珍しいものである。根元に、三軒の黒田家が祀る地神宮があり「地神様の大もみじ」とよばれる。11月下旬~12月初旬に二子山を背景に見事な紅葉が見られる。



133 だいとくいん いっほんすぎ 大徳院の一本杉 1本・町指定天然記念物 昭和61年2月26日指定

下小鹿野208-1・大徳院

奈倉の大徳院の門前にあり、目通り周囲4.5m、樹高約20mを測り、樹齢は約300年と推定される。大徳院に伝わる延享3年(1746)の古絵図にも杉の存在が記されている。杉の前を通る街道は、奈倉から下吉田、伊古田へ通じるものでその要衝にある杉の木は通行の目印として親しまれてきたと思われる。



134 しょざわじょうあと 塩沢城跡 県選定重要遺跡 昭和51年10月1日選定

両神簿柏沢谷4486ほか

戦国時代の山城で『新編武蔵風土記稿』に長尾意玄入道景春が一時籠城した城かと記される。周囲には夜討沢、駒繫ぎ松、調馬場など景春の立て籠もりに関する伝承も数多い。城跡は柏沢と塩沢の両集落の分水嶺をなす「城山」の頂上付近にあり、標高520mから750mにかけて主郭、帯郭、平場、切り落としなどの遺構が確認される。

